

川崎病

川崎病について

川崎病は**熱が続く**病気です。

原因は不明ですが、全身の血管に炎症が起こることがわかっています。

1歳から4歳ぐらいにかかることがほとんどで、特に1歳前後でこの病気にかかることが多いです。

熱が続く以外にもいろいろな症状が出現します。



川崎病の怖いところは発熱ではなく、
心臓に栄養や酸素を送っている血管である
冠動脈に瘤（こぶ）ができることです。

川崎病で冠動脈の炎症が続くと血管の壁が傷みもろくなります。

もろくなった血管が血圧に負けて膨らんでしまうのです。

川崎病が治り、熱や炎症が改善しても、

大きく膨らんだ冠動脈の瘤は残ってしまいます。

大きな瘤が残ると将来それが詰まったり、狭くなったりする可能性が高く、
それを防ぐお薬もずっと飲まなければいけません。

そうならないために、川崎病と診断されたら、

早くに適切な治療を行う必要があります。

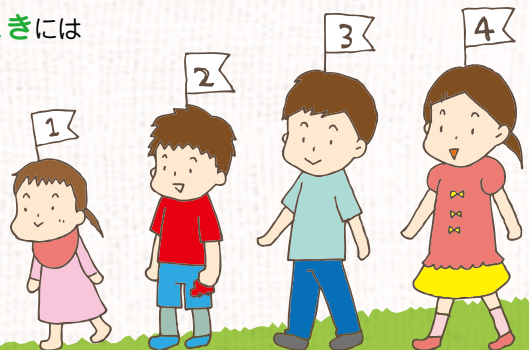
現在は免疫グロブリン大量療法という治療が一般的で、

適切な治療により95%以上の人が冠動脈に問題がなく治ります。

熱が出て1日、2日で川崎病とわかることは少ないので、

熱が続き、症状がいくつかあるときには

小児科医に診てもらうことが大切です。



どんな症状？

すべての症状が揃わなくてもいくつかの症状が揃えば川崎病と診断されます。

- ☐ 発熱が続く
- ☐ 白目が赤く充血している
- ☐ 手足の指がパンパンに腫れる
または、手のひら・足の裏が赤くなる
- ☐ 発疹が出現
発疹のタイプはいろいろです。
BCG 接種の部分が赤くなる場合もあります。
- ☐ 唇が赤くなったり、
舌がイチゴのように、表面がブツブツし、赤くなる
- ☐ 首のリンパ節が腫れる
- ☐ BCG 接種の部分が赤くなる

